

オホーツク管内

とよさとかがら 豊郷神楽

民俗芸能団体：豊郷神楽保存会（網走市）

解説



明治39年（1906年）、宮城県からの入植者の中に仙南^{せんなん}地域に伝わる「出雲流^{いずも}岩戸神楽^{いわと}（十二神楽^{じゅうに}・代々神楽^{だいだい}）」の流れを汲む仙台^{せんだい}神楽の手ほどきを受けた人々を中心に始められた神楽である。

明治42年（1909年）に第一西藻琴^{にしもこと}神社（現 豊郷神社の前身）に奉納して以来、開拓者の精神を受け継ぎ農業生産の意欲高揚と、地域の人たちの心の安らぎとして、戦時中も途切れることなく継続し、令和2年（2020年）で111回目の奉納となった。

舞は、神楽殿の四方を清め悪魔を払い、種を蒔^まき豊作を祈り、海で漁を山で狩りを感謝する内容の12幕で構成されており、出演者は舞手と大太鼓・小太鼓・篠笛の伴奏者となっている。使用する面は、明治期に手作りされた物も大切に使用している。

毎年、8月1日に行われる豊郷神社祭の宵宮に境内神楽殿で奉納している。